

# みらいん

「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。

みやぎの

第9号



◀秋葉さん(写真後列中央)  
を囲む新たな仲間の皆さん

今月の  
ひと

海を見る人、海を守る人

## 仙台市でただひとりのノリ養殖業

### 仕事をもち普通の生活を取り戻す努力を

中野地区の町蒲生で父の代からノリ養殖業を営んでいた秋葉吉夫さん。

蒲生でノリ養殖をしていた仲間は、震災を機に引退したり、小型底引漁に転向したため  
仙台でノリ養殖業に従事するのは、今や秋葉さんひとりになりました。

甚大な津波被害で、秋葉さんは自宅やノリ養殖の設備・資材の全てを失いましたが、  
「震災前と同じように、まずは仕事をもって普通の生活に戻す努力をしないと」と、  
仙塩地区4人での共同経営で、再びノリ養殖に踏み出しました。

また、震災でノリ養殖業を廃業した七ヶ浜町の2人にも手伝ってもらっています。

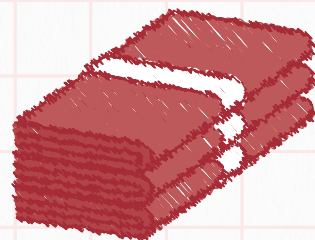
岩手・宮城・福島各県の漁師の多くが震災被害に遭い、あらゆる資材が流失したため  
注文が集中して調達の遅れが続きますが、なんとか急ピッチで作業を進めています。

今後は、8月20日頃から陸上での種付け作業が始まり、  
製品となって皆さんのもとに届くのは今年11月ごろの予定です。

日本全国で最初に出荷されるノリは宮城県産。

海に出て、海を守るのが漁師であるという誇りをもちつつ、

「共同経営のこの仕事に専念し、まずは軌道に乗せたい!」と、気概あふれる秋葉さんです。



2012

8月



# それぞれの再建

題字：佐藤俊夫  
(南町1丁目公園仮設住宅)

「ふるさとから離れた地で再建」、「現地で再建」、と立場は違いながらも前向きに復興を進める方々の現状を追いました。

## ふるさと・新浜で再建する菊地菊男さん

### 新浜で暮らすことを決意



「全国の皆さんから受けた支援の感謝も語り継いでいかないといけない」と菊地さん

岡田地区・新浜で建設業の「有限会社菊ペン塗装店」を36年営む菊地菊男さん。市街化調整区域であるこの地域で、先代までは専業農家でした。

震災当日、新浜の事務所で被災した菊地さんは、会社の発電機を動かして見たテレビで津波を知り、事務所にいた妻のとも子さんと、近所の方2名を車に乗せて若林区六丁目のビルへ避難。3日間お世話になった後は福室の親戚のビルを借りて、被災した若い社員も宿泊させながら、仕事を再開しました。「皆さんの人探しのお手伝いも気がかりでしたが、建設業に係わる責任上、災害復旧するためにも速やかに動き出す必要がありました」と、菊地さんは当時のことを振り返ります。

昨年3月30日には、津波被害を免れた自身の塩釜市のアパートへ夫妻で移り住み、現在も新浜の事務所へ通う日々です。菊地さんは、忙しい仕事の合間を縫って行政の説明会などに積極的に参加し、不明点をどんどん質問するうちに、「想定概念でなく、実際に起きたことを基にした津波シミュレーションは、極めて信頼できる」と、市の震災復興計画の安全性に納得し、現地再建を決断しました。

### ふるさとである新浜

菊地さん一家が代々守る墓石を見ると、360年ほどの歴史をもつ旧家。「私たちの先人たちも過去に津波の被害に遭っているようなんです。この先にナミアライという地名がありますから。ところが最近はそのような話も継承しなくなっていたんですね。今回の津波はあまりにも大きいから何百年と教科書にも載るでしょうけれど、語り継いでゆくということを大事にしなければ」と、自身のことも戒めながら、ふるさと・新浜について語ってくれました。「町内全部が親戚みたいなもので、お互いがよく気持ちを知ってるからね。和むっていうのかな。いろいろと助け合って暮らしてきましたから」

昨年、新浜で「復興まつり」を行った際、久しぶりに地域を訪れた方々が「やっぱり、ふるさとはいいなあ」と口々にするのを聞いて、菊地さんは胸が熱くなったと言います。「ふるさとを守る！そして、今回の震災で犠牲になられた皆さんをここに居て供養してあげなければ。それをやるのは我々しかない。そして今回のことを子どもたち、更にその子どもたちに、今度こそ伝え続けなければいけない」



現在建設中の住居基礎

### 現地再建に向けて



かなり予算オーバーですが、建物は基礎が一番大事ですから納得して進めました

新浜に戻ることを不安がっていたお嫁さんにも、菊地さんは、津波シミュレーションに基づきかさ上げて備えることで、安全性が保たれることをきちんと噛み砕いて教えました。今では建築中の2世帯住宅ができあがるのを楽しみにしていると語ります。新居は今年11月に完成予定、12月には塩釜のアパートから新浜の自宅、「ふるさと」へ戻る予定の菊地さん。「私の経験で何かお役に立てるのであれば遠慮なく連絡ください」と、地元の方に限らず現地再建を考える皆さんへ呼びかけました。

#### 菊地さんが現地再建で留意した点

##### 1. 基礎づくりの工夫

- 通常は土壌改良しセメントを混ぜて杭を打つのですが、設計屋さんのアドバイスによりべた基礎<sup>\*</sup>を2重にして耐震面を強化しました。<sup>\*</sup>べた基礎：建築物の基礎の立ち上りだけでなく、底板いち面が鉄筋コンクリートになっている基礎です
- 津波シミュレーションによると、海岸に7.2mの堤防、海より1100mの所に6mのかさ上げ道路が完成すると、今回の規模の津波がきても50%の浸水と言われます。地盤沈下したことも考慮し、1mのかさ上げをして更に30%の建物基礎をつくり、津波や洪水にも備えました。

2. 分からないことは遠慮せずにどんどん聞くべきです。盛土の助成について、何度も細かく聞きました。自分の人生に関わることでですから、どんな小さなことでも、遠慮せずに聞くことが大事です。
3. いろいろな方と情報交換、情報共有をしましょう。そうすることで不明点が解決したり、分かりにくい助成枠や支援対象についても理解できる場合があります。
4. 説明会などで入手する行政側からの資料はとことんまで目を通し、まずは自分自身が理解消化する。その上で家族などへ説明しました。

## 遠刈田で再建する山口養魚場

### 震災時と今の状況

蒲生で銀鮭と鯉の稚魚専門で養殖をしていた山口義雄さんは地震発生時、稚魚を守るために堤防の水門を閉め、発電機を動かして地下水を汲み上げた後、中野小学校に避難しました。その後の津波で多くの友人を亡くし、4月に出荷を控えていた鯉の稚魚120万匹と銀鮭の稚魚18万匹も全滅、養殖どころではなくなっていました。

震災後は、港地区の町内会役員を依頼されましたが、「家業をなんとかしなくては」と考え、後に町内会長になる佐藤武夫さん、仮設住宅の自治会長である佐藤政信さんにその職務をお願いし、事業の再建に専念することにしました。養魚場と一緒に営んでいた弟の義信さんは震災前から主に蔵王町遠刈田で稚魚を育てており、兄弟は蒲生との間を行き来していました。再起を果たす為に、今は遠刈田の地で兄弟共に働く毎日です。青サギやトンビが空を舞う養殖池の前で、再建に向けて静かに闘志を燃やす義雄さんです。



稚魚に餌をやる弟の義信さん

### 蒲生を拠点としていた頃

さかのぼること終戦前、塩釜市の魚市場の専務さんや蒲生の有志の方々が、鰻の養魚場を蒲生に作りました。鰻が下火になり、山形県上市市で鯉の稚魚を育てていた義雄さんの父がこの養魚場を引き継いだのです。それが山口養魚場の始まりでした。その頃は七北田川河口にハマグリや車エビが沢山いて自然環境が豊かだったと言います。「蒲生は全てが良かった。水温が高くて稚魚の育ちが早い。遠刈田は水温が低くて、ひと月の差がある」と、義雄さんは話します。銀鮭の稚魚は秋までに150g程、大きさを20~25gに育てた後、志津川、雄勝へ出荷されて成魚になるまで育てられます。「稚魚が全ての元だから、この稚魚が無いと海の人々の復興は無いだね。私も海の人がいないとやっていけない。自分がこの仕事を守らないと」と、力を込める義雄さんです。



現在の蒲生で。稚魚を狙う野鳥も多かったよね、と懐かしむ義雄さん

### 今後は—

「蒲生の皆さんには大変お世話になりました。またいつか皆さんに会えることを楽しみに、再建に向けて頑張っています」と義雄さん。しかし育てた銀鮭などが卸される女川町や石巻市の市場、加工場や冷蔵庫が出来るまで2年程かかるとみられている上、風評被害など課題は山積しています。「あと2年くらいでどう回復するか。県からは『また蒲生で養殖をやってくれ』という声もあるけど、堤防が出来ないと。本当は蒲生でやるのが一番だから、そこに向けてなんとかしなくちゃね」。魚の成長を日々感じられる楽しみがあるからこそ、養殖業を続けている義雄さんです。



蒲生に比べて涼しい遠刈田の養殖池前で



このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にリレー形式でご登場いただきます。



●郁夫さんと一子さん。近所に住む孫の慶人と幸ちゃんも一緒に。取材の日、母の利子さんは外出中で不在。もう1人の孫、小3の快濃くんは学校のため撮影に参加できませんでした

第4回

黒沢郁夫さんご一家(岡田・鍋沼)

ダックスフントのチョコも一緒に避難

郁夫さんは鍋沼の自宅で被災し、妻の一子さんと母の利子さん、ダックスフントのチョコと車で避難しましたが、真つ黒な津波に追われるような状況でした。また、車内テレビの報道を見て、「これは大変なことになった」と、言葉にならない恐怖を感じたと言います。中野栄の親戚に2週間ほどお世話になった後、中野栄の借り上げ民間賃貸住宅に移りました。転勤で青森にいた長男・健太さんは、中野栄に住む長女の千春さんや、福室に住む次女の千尋さんと間もなくメールで連絡が取れ、家族全員の無事を確認。「娘たちの夫や皆さんが泥かきや片づけを手伝ってくださったことは、本当に力強かったです」と、郁夫さん、一子さんは声を揃えます。

当初から一貫して移転再建を希望

「悔しかった。泣くしかなかった。ああいう状況を2度と子や孫に味わせたくない」と、郁夫さんは震災の翌日、一子さんとふたり草履ばきで、泥とガレキだらけの自宅を訪れた様子を思い出しながら語ります。「借金に借金を重ねて、移転します!」と、当初から一貫して移転による再建を意思表示する郁夫さんは、なるべく南蒲生復興部の会合に顔を出し、情報交換しています。一子さんは、震災後に友人からパッチワークを教えてもらい、新たな趣味ができました。利子さんは、近所に住む姉妹や友人たちと昼食や外出を楽しんでいます。「お蔭様で皆、元気に頑張ってますよ!」と、メッセージを投げかけてくれました。

今回は黒沢さんご夫妻から紹介された中野地区の方にご登場いただく予定です

●町蒲生出身です。蒲生二丁目から福田町のアパートへ移りました。その後、「中野小が中野栄小学校に間借りして開校している」と聞いて中野小へ子どもを通学させています。先日の授業参観では、人数は少ないけれど楽しそうにやっていたので安心。昨年に比べて今年は運動会も盛り上がりつつあったので、このまま中野小生として進んでくれればありがたいですね。 篠澤幸代さん

読者からひとこと

みらいん編集部 取材ダイアリー

6月 7月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

22日(金)「岡田昭和の館」で遊ぶ子どもたち(上岡田)



上岡田の菅野良夫さん自宅敷地に建つ「岡田昭和の館」を訪ね。ここでは、昔の農作業道具や家庭用品などが実際に手で触れられる状態で展示されています。岡田小学校の生徒が授業で訪問した翌日には、子どもたちが「遊びに来ました!」と、大きな声で再訪し、専能寺から寄贈されたジャングルジムで大はしゃぎ。菅野さんは、「上岡田まちおこしの会」の活動として、地域に伝わる明神太鼓を子どもたちに毎週1回指導しており、町内会のお祭りなどで披露されます。



の会の活動として、地域に伝わる明神太鼓を子どもたちに毎週1回指導しており、町内会のお祭りなどで披露されます。

28日(木)畑の水やり(扇町4丁目公園仮設住宅)



敷地内北側の一角に、野菜好きが集まって世話をしている畑があります。夕方、水やりに皆さんが集まってきました。庄司和弘さんと町蒲生出身の佐藤昭子さん、小野文子さんです。誰ともなく皆さんが世話をしに畑に顔を出します。既に収穫したカリフラワーは竹輪とマヨネーズで和えて食べたそうです。「なんともなく美味かった」と庄司さん。

7月4日(水)中野小学校の1日学校公開日(中野栄小学校)



この日は保護者が自由に授業を見学できる学校公開日。5年生の5時間目は音楽です。メロディーが引き立つように、速くならないように、という点に注意して演奏した「威風堂々」。それぞれがリコーダー、木琴、太鼓、シンバル、ピアノといった楽器を担当して、音を合わせました。演奏終了後に先生が、録音した子どもたちの演奏を流して聴かせ、それに聴き入る子どもたち。練習して更に上達することでしょう。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建...沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体が話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生復興部

個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、町内会から権限の委譲を受けて、独自の復興計画を行政に提案しています。

7月4日(水) 現地再建派・まちづくりワークショップ

- 内容 ●住民アンケート結果の概要説明 ●仙台市からの情報提供 ●グループに分かれてのまちづくりワークショップ

当日の様子 ワークショップでは、南蒲生町内地図に各々の自宅の位置や避難道路・避難施設の設置希望場所を書き込む作業が行われました。「のんびり暮らせる場所を」「大型車がすれ違えるように街道を広げる」「次の世代のために植林をする」「岡田会館を2階建てに」「カブト虫の里を作ろう」といった提案の他に、「避難訓練をきちんと続けていこう」という意見や、「リフォームすれば住み続けることは可能である」「農業がしたい」といった現地再建に対する思いが語られていました。また11日(水)には移転再建派の会合が持たれました。両日に集まった意見は住民説明会で報告されます。



▲未来の南蒲生を担う子どもたちに意見を聞いてみては?という声も上がりました

問い合わせ先:代表 芳賀正 090-4042-9464 事務局会議:毎週水曜日18:30~ 岡田西町公園仮設住宅集会所 住民説明報告会:毎月最終日曜日 岡田会館

新浜復興の会

住民の心の復興、迅速な情報提供、今後も安心して新浜に住み続けられる地域づくり、移転を決断した仲間を尊重する、といった活動方針に沿って運営しています。

7月1日(日) 新浜復興の会 第3回町内会全体報告会

- 内容 ●「5月8日に市へ提出した要望書に対する、市からの回答書」の報告 ●現地再建・移転希望者に分かれての意見交換

当日の様子 遠藤代表から「現段階で移転実現までのハードルは高い。行政がすべてやってくれる訳ではないので、自分たちの力で進めていかなければならない」と、移転実現の難しさや団結を促す説明がありました。質疑応答では「復興公営住宅は危険区域外の浸水区域の者も入居可能か?」との質問があり、市側から「入居可能である」との回答がなされました。その後の現地再建グループの意見交換会においては、移転跡地の活用や今後のコミュニティ形成について議論がなされ、「隣地を買い取りたい」「区画整理して集団農業を」といった意見が出されました。一方、移転希望グループには、行政側から新たな移転候補地についての情報提供がなされました。



▲「どのように再建をしようか...」意見を話し合います

問い合わせ先:代表 遠藤芳広 090-2020-4002 世話人会:毎週土曜日18:00~ 福田町南1丁目公園仮設住宅集会所

中野小学校区復興対策委員会

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

7月1日(日) 第24回復興対策委員会

- 報告事項 行政側より ●防災集団移転促進事業に関して変更点あり ○移転地区内の跡地を市に売却しなくても集団移転は可能 ○集団移転する本人ではなく、親族が移転者のための住宅建設資金等を借り入れた場合でも、利子相当額の補助の受け取りが可能 ●防災集団移転促進区域内の宅地面積確定のための現地測量について ○早く面積確定をするため、現地立会いを省略 ○年内に面積確定、年度末に買い取り価格を提示。できれば移転時期と買い取り時期を合わせていきたい ○買い取り依頼書を受け、市として不動産鑑定士に依頼。2~3か月かけて価格を算出

- 質疑応答 Q. 土地の評価額はいつ時点のものになるのか A. あくまで買い取り時点のものとなる Q. 買い取り依頼書の期限や世帯分離の方法について A. 期限は無い。また、世帯を分離して各々の土地に移ることは可能だが、支援は倍にならず、分けることになる。身内で隣同士に住めるかという質問もあった

が、希望者が多ければ抽選になる。コミュニティ維持の配慮はしたい。 Q. 個別説明会に関して、資金の話をするには金融機関の方がいないと話を進めることが出来ない。 A. 金融支援機構には、出来るだけ出席を願うようにする。

当日の様子 「地価は待っていても下がる一方だ。整地するなどして価値を上げるべき」、「行政や自衛隊からの要請を受けて、家屋を取り壊した人もいる。そういった方への配慮も何か欲しい」といった、所有地に関する声が上がりました。また「申出書が非公開なため、集団移転しようにも誰がどこへ移転を希望するか分からず、話のまとめようがない。互いに会話も減っており尚更である」といったコミュニティ形成に関する悩みも聞かれました。疲れを口にする委員に対して別の委員が奮起を促すなど、助け合いの精神が見られる一幕もありました。

問い合わせ先:委員長 高橋實 022-258-3068 定例会議:毎月第1,第3日曜日16:00~ 鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所



# 被災地レポート

取材地

## キリンビール仙台工場 (仙台港地区)

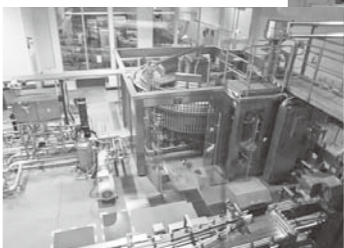
従業員総出で工場清掃  
今年二月に完全復旧

通称「仙台新港」の目の前、キリンビール仙台工場は、震災を乗り越え、今年二月に完全復旧しました。ビール貯蔵用の巨大タンク四基が倒壊し、津波によって製品約一千七百万本(三百五十リットル缶換算)が流出しました。

従業員からは「仙台工場は閉鎖になるのではないか」という不安の声が上がるほど、被害は甚大でした。しかし、キリンビールの松沢幸一社長(当時)が、工場再開の目標を明確に示すと、空気は一変しました。四月末にはほとんどの従業員が自社として工場内の清掃を始めました。

仙台工場総務・広報担当部長の小倉彦彦さんは「最初は本当に終わるのか見当もつきませんでした」と、広大な工場内のガレキ撤去や流出した製品の回収作業を振り返ります。従業員総出で、地道に作業を進めました。

地震で4基が倒壊した工場内のタンク。現在は復旧しています



復旧した製造ラインで缶ビールが作られており、工場見学ツアーで見学可能です

懸命の復旧作業により、昨年十一月二日、ついに初出荷を迎えることができました。

従業員の中にはそれまでの努力を思い返し、涙する人もいました。再開第一号の製品は、岩手県遠野市産のホップを使った「一番搾り」とれたてのポップ生ビールです。小倉さんは「東北の恵みを頂いて商品を作ってきました。東北の皆さま

んに飲んでいただくことで支えられてきたのです。少しでも被災地のためになるよう、この商品での再スタートを決め、被災直後から頑張ってきました」と語ります。今年二月十五日には、残っていた瓶ビールのラインも再稼働し、完全復旧を果たしました。

これまでの支えに恩返し  
地域の方と共に歩む

同工場では、お世話になってきた地域への貢献を目指した活動を行っています。

今年三月十一日には、敷地内で蒲生地区の合同慰霊祭を行い、約千人の住民が祈りを捧げました。

被災した地元の高砂中学校には、クラブ活動や体育の授業の際に工場内の体育館を貸し出しています。ジャージ姿でやって来て、元気に挨拶する子どもたちに、従業員も笑顔をもたらしているそうです。

キリンビール(株)CSR推進部CSR推進担当の伊藤一徳さんは、「子

どもの笑顔が、周りの大人も笑顔にします。それが地域コミュニティを元気にする推進力となり、復興に向けたパワーを生み出していければ」と、活動の意義を語りました。「復活」した工場見学ツアーにも多くの人が足を運びます。復旧への軌跡を伝え、工場内部の様子を楽しみながら見学できます。「地域の方も、「昔は工場見学に行ったな」と懐かしそうに話します。今の子どもたちにも良い思い出を残してもらえたら」と小倉さんは笑顔で話します。「地域の方々から、復旧したことに對して『良く頑張ったね』という声を頂きます。地元のご理解と支えがあって、ここまでやってこられたことができました」と小倉さん。 「東北の方々に向けて製品を作り続け、笑顔と元気を届けていきます」



取材に応じて下さった小倉彦彦さん(右)、伊藤一徳さん

# 情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

## 聴覚障がい者向けの代理電話支援

耳に障がいがある方と健聴者の電話を通訳する代理電話支援を行っています(要登録、利用無料)。健聴者が話す内容をオペレータが携帯メールやFAX、テレビ電話などを用いて手話・文字で通訳します。他にテレビ電話での遠隔通訳、臨時災害FM情報の文字化も行っています。

**対象** 被災3県(宮城・福島・岩手)にお住まいの聴覚障がいがある方

**申込方法** 希望者のお名前・住所・FAX・音声電話(利用可能な方)・メールアドレス・生年月日・性別を明記し、別途、身体障がい者手帳のコピーを添えて、FAX、Eメール、Webで登録ください

**問・申** FAX: 0120-522-899 日本財団 遠隔情報・コミュニケーション支援センター

Eメール: nf-support@plusvoice.jp

Web: http://plusvoice.jp/nf-support/

## 健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)

**対象** どなたでも参加できます

**時・所** 各仮設住宅集会所

▼高砂1丁目公園 8月24日(金) 10:00~

9月5日(水) 10:00~

▼鶴巻1丁目東公園 9月5日(水) 13:15~

▼福田町南1丁目公園 8月20日(月) 10:00~

9月3日(月) 10:00~

▼岡田西町公園 8月30日(木) 10:00~

▼港南西公園 9月7日(金) 10:00~

▼仙台港背後地6号公園 8月22日(水) 10:00~

▼扇町1丁目公園 8月10日(金) 13:30~

▼扇町4丁目公園 9月12日(水) 10:00~

**問** 022-291-2111(内線6782、6784) 宮城野区家庭健康課健康増進係

## 巡回相談

地域支えあいセンターによる巡回相談です。生活上の困りごとなどの相談に応じています。

**対象** 主に借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

**巡回相談(8月10日~9月10日 9:30~15:00)**

▼田子市民センター 8月31日

▼中央市民センター 8月25日

▼高砂市民センター 8月23日、30日

▼福室市民センター 8月21日

▼岩切市民センター 8月29日

※常設の「支えあいセンターみやぎの」もご利用ください

**住所** 宮城野区原町3-5-32 コーポゼン1F

022-292-0990(開所時間/8:30~17:00、相談受付/9:30~15:00、休/日・月曜日、祝日の翌日、年末年始)

**問** 022-217-7234 仙台市社会福祉協議会 中核支えあいセンター

## 夏のお祭り

宮城野区内の仮設住宅で夏のお祭りが開催されます。近隣の方もご参加ください。

**〈盆踊り〉**

仙台港背後地6号公園仮設住宅と蒲生町内会の共催で行われる盆踊りの催しです。模擬店も出ます。参加無料。

**対象** どなたでも参加できます

**日時** 8月11日(土) 17:00~20:00

**会場** 仙台港背後地6号公園仮設住宅駐車場

**問** 090-7935-8557(仮設自治会長 佐藤)

**〈おかだ夏まつり〉**

がんばっぺ岡田の会が主催する夏祭りです。

**対象** どなたでも参加できます

**日時** 8月12日(日) 16:00~

**会場** 岡田小学校校庭 ※雨天時は体育館

**会場** 090-7079-5371(二瓶透)

## 多重債務でお悩みの方はいませんか?

東北財務局では専門相談員を配置し、自らの収入で返済できないほどの借金を抱え悩む方々の相談に応じています。必要に応じて弁護士・司法書士にも引継ぎます。

**対象** 多重債務でお悩みの方(自営業者も含む)

**時** 月~金曜日9:00~17:45(祝日除く)

**問** 022-266-5703(直通)、022-263-1111(内線3080)

東北財務局 金融監督第三課(青葉区本町3-3-1)

[相談無料・秘密厳守]

## 町田宗鳳先生の「風の集い」

広島大学大学院教授の町田宗鳳先生による、日本の禅を現代人向けにアレンジした「SOHO禅」の体験座談会。「ありがとう」とゆっくり発声しネガティブな気持ちにも効果がある画期的な瞑想法です。

**対象** どなたでも参加できます。申込不要

**日時** 8月26日(日) 14:00~17:00

**会場** 仙台市福祉プラザ11階(青葉区五橋2-12-2)

**参加費** 被災された方は無料、一般参加2000円

**問** 090-3420-8622 風の集い事務局(河原)

## 大崎八幡宮雅楽演奏会「雅楽の夕に、」

震災復興をテーマとした、参加型の雅楽の演奏会です。雅楽のプロによる演奏のほか雅楽の唱歌と一緒に歌うなど、参拝者の皆さんが気軽に参加できます。参加無料。

**対象** どなたでも参加できます

**日時** 8月13日(月) 16:00~18:00

**会場** 大崎八幡宮境内(青葉区八幡4-6-1)

**内容** 雅楽の演奏、災害復興についてのトークと「まけないぞう」製作ワークショップ

**問** 022-234-3606 大崎八幡宮社務所



# けんいんコラム

からだ編  
歯根膜。それは「口福」を伝える  
食感センサー

歯根膜とは？ これは歯から伝わる刺激を脳へ伝える食感センサーです。歯根膜は骨の中で歯を支えているトランポリンのようなハンモック状の膜で、神経につながっています。モノを噛むとこの膜が歯に押されて脳に刺激が伝わり、血液の流れが増します。だから運転中眠くなったらガムを噛むと目が覚めるのです。

歯根膜からの刺激は人の生活にも影響を与えます。お年寄りの生活状態を歯の本数で調べたら、しっかり噛んでいる人、自分の歯でモノを噛める人は、自立した生活を送っている人が多いことがわかりました。その一方、歯を失い入れ歯も入れていないお年寄りの方は寝たきりになっている方が多くなっていました。歯根膜すなわち食感センサーを刺激することは脳や体、心を元気にします。「バリッ」「サクサク」「シャリシャリ」と食感のバリエーションを食事に取り入れて「口福」を感じてください。そういった意味では、いろいろな素材を多様な調理法で楽しむことができる和食はおすすめです。お口と歯から始まる健康生活はじめてみませんか。

旭ヶ丘ジュン歯科 歯学博士 柏崎 潤

柏崎 潤 (かしわざき じゅん)

日本睡眠学会認定歯科医、クリニック内で『ジュン先生の歯楽教室』を開催するなど、歯と健康に関するトータルアドバイザーでもある。ホームページ <http://www.junshika.jp/>

## クロスワードパズル

出題  
石田竹久

こたえ

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

1	2		3		4	
			B			
5			6	7	A	
8		9		10		11
	12		13		D	
14	E				15	
		16		17		
18				19		
	C					

### タテのカギ

- ①仙台七夕といえばこの曲、鳥倉千代子の『七夕○○○』
- ②八木山動物公園でこの夏、人気者の予感。6月に誕生した、○○○○のヒナ
- ③塩辛にしたり、ソーメンのように食べたり
- ④天気予報で発表される○○○は様々。洗濯や紫外線、不快などが
- ⑦もち米を蒸した米飯
- ⑨7月の第3月曜日は、○○○の日
- ⑩仙台市に発祥の店がある夏の風物詩、○○○中華
- ⑬勾当台公園に銅像もある、仙台市出身の大横綱・谷風。年2場所の時代に横綱○○○は10場所を数えました
- ⑭「たまや〜」「かぎや〜」。仙台市をはじめ、8月は各地で○○○大会が夏の夜を彩ります
- ⑮農地再生の「菜の花プロジェクト」によって、塩害に強い菜の花が栽培され、○○○油が作られます
- ⑯疲労をかえりみずに没頭するのは、○○を詰める
- ⑰七夕の彦星の別名は、○○飼い星

### ヨコのカギ

- ①お出かけの日に雨が降ったりすると、「日ごろの○○○○が悪いから…」なんてセリフが
- ④甘辛く味付けた仙台味噌をこれの葉に巻き、焼いても揚げても美味
- ⑤ロンドン五輪、3位の選手には○○メダル
- ⑥混沌、無秩序の意味で、宇宙誕生以前を指したり
- ⑧農業をやめて他の仕事に就くこと
- ⑩私費に対して
- ⑫地下鉄南北線は、泉中央駅から○○○○駅を結びます
- ⑭アナログ時計の文字盤で追いかけて
- ⑮蔵王町や利府町で収穫が盛んな果物。幸水や長十郎などが
- ⑯仙台七夕の時期によく流れるメロディ、『青葉城○○○○』
- ⑰市街地の美しい眺めを維持するよう定める、○○○地区
- ⑱仙台市にゆかりのある新作映画を市が全面的にバックアップし、地域振興へとつなげるのが、仙台○○○認定制度

### 前回のこたえ

A タ B ナ C バ D タ

でした。

1	フ	ナ		2	ヒ	マ	3	ワ	4	リ
	キ		5	タ	ケ		6	タ		ン
7	ナ	イ	ン		8	ト	リ			
	ガ		9	オ	ウ		10	ヨ		
11	シ	12	サ	ク	13	ホ	14	テ	イ	
			15	ア	ク		16	キ		バ
16	ア	リ		ナ						

### 編集後記

表紙「今月のひと」に登場の秋葉さんと仲間の皆さんが、ノリ養殖グループの名前を募集中です。思いついた方は、直接、秋葉さん(090-2028-1529)へ連絡を! (芳賀)

仮設住宅を訪問すると、多くのお宅でゴーヤーを用いた緑のカーテンを作っているのを見かけます。ゴーヤーチャンプルが大好物の私。余って困りでしたら是非お声掛けくださいませ。(おおが)

### 。。。お住まいを移転される方へ。。。

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先：〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部  
TEL：022-390-5755  
FAX：022-390-5756 e-mail：kawara@mwww.or.jp